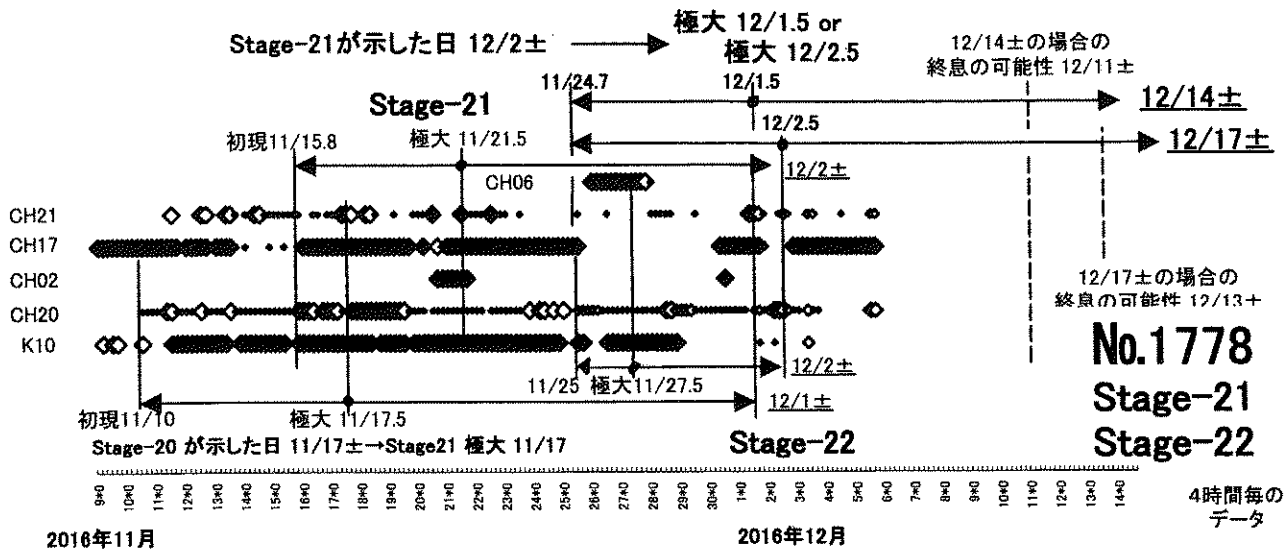


原稿校了後の前兆変化について

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

No.1778 長期継続前兆現況報告 12月05日 本日 前兆継続のため
早い場合でも12月16日±2 迄発生の可能性考え難い見解 前兆終息を待つ



No.1778
Stage-21
Stage-22

2008年07月より8年5ヶ月と云う過去例の無い長期に継続する前兆（通常の地震前兆は数日程度。長い場合でも数ヶ月。但し2008年の宮城内陸地震は3年3ヶ月前兆継続。過去最長例）No.1778長期継続前兆の続報現況報告です。

第21ステージが示した12月02日±に対し、12月1~2日に極大が観測され、第22ステージに入った認識です。過去例では数回この様なステップの前兆変化があった地震例はありましたが、今回の様に22ものステップ変化がある観測例も初めてで極めて異例です。どのような状態になったら、最終段階なのか判りません。但し、最終段階では、そのステップの前兆が終息することが予想されます。現在までの22ステージまで、前兆の完全終息はなく、全て前兆が弱くても継続したまま次のステージに移行して参りました。

さて、極大は12月1.5日と2.5日の2種の可能性が考えられます。前回のNo.1778関連の続報では、考え易いCH17系特徴の出始めを初現と仮定して計算しました。その場合は12月06日±

を示すことになり、これが正しい場合は、本日12/5午前に前兆終息が観測されることが計算されていました。しかし、表題のとおり、本日前兆は継続出現しており、本日の前兆の出現状況を見ても、数日以内に終息する可能性も考え難い状況です。このことから、初現認識が間違っていたことが確実です。11/28のCH21を初現とする可能性も前回記しましたが、11/28よりは11/24.7の方が初現としては考え易い見解となりました。

11/24.7を初現とし、12/1.5又は12/2.5を極大とした場合のTfap:Tmap=20:13 経験則から求められる時期は、上記右側記のとおり、12月14日±又は12月17日±時期となります。さらに、各々の場合の前兆終息推定時期も記入しておきました。過去例からすると、今回の第22ステージにも今後更に極大が出現する可能性も否定できませんが、仮に現在の極大だけであると仮定した場合、可能性として考えられる前兆終息時期を記しました。

第21ステージより今回の第22ステージの方が前兆出現観測装置数は少なくなっています。

今回が最終段階であるか否かは不明ですが、仮に現段階で推定される時期に対応地震が発生する場合には、前兆の完全終息が示唆されます。勿論、上図中記時期よりも早い時期に前兆終息が観測された場合は、直ちに続報させて戴きます。

◆推定領域：右図点線領域内付近=大枠推定領域
太線領域内付近=可能性考え易い推定領域
※岐阜県～福井県（石川県南部と滋賀県北部含む）

◆推定規模：M7.8±0.5

◆推定時期：前兆が完全終息したのち発生日計算
現状早い場合の可能性日=12月16日±2
(今後の観測データを解析して続報予定)

◇推定地震種：震源深さ30km以浅の日本列島地殻地震

◇推定発生時刻：午前9時±1（又は午後6時±3）
(前震発生の場合は無効)

